

メッセージ 4

花嫁の美しさ

聖書：ローマ 6:19, 22. エペソ 5:25-27. 啓 19:7-9. I テサロニケ 5:23. 雅 8:13-14

I. 性情の聖別の過程は、わたしたちの有機的な救いの過程であり、わたしたちを美しくして、キリストのために、わたしたちを美しく、^{きよ}聖い、栄光の花嫁となさせます——I テサロニケ 4:3 前半. I ペテロ 1:15-16. エペソ 1:4-5. 5:25-27. I テサロニケ 5:23-24. ローマ 6:19, 22 :

A. エペソ第5章 25 節から 27 節は、神の全体的な救いを全体的に啓示しており、三つの段階におけるキリストをわたしたちに提示しています :

1. 過去、キリストは贖い主として、召会のためにご自身を捨てました。この事はわたしたちの法理的な贖いのためでした——「夫たちよ、キリストが召会を愛して、彼女のためにご自身を捨てられたように、あなたがたの妻を愛なさい」——エペソ 5:25。
2. 現在、キリストは命を与える霊として、召会を彼の要素で浸透することによって召会を性情において聖別しつつあり、召会が彼の配偶者となるようにします。これは花嫁を美しくし、花嫁の用意を整える、有機的な救いです——「それはキリストが召会を聖化し、言葉の中の水の洗いによって召会を清めるためであり」——26 節。
3. 将来、キリストは花婿として、召会を彼の満足のための配偶者として、ご自身にささげます——「またそれは、しみやしわや、そのようなものが何もなく、聖くて傷のない栄光の召会を、彼がご自身にささげるためです」。これは、花嫁がささげられるためにわたしたちが栄光化されることです——27 節。
4. 過去、キリストは召会のためにご自身を捨てました。現在、彼は召会を聖化しつつあります。将来、彼は召会を彼の満足のための配偶者として、ご自身にささげます。ですから、彼が召会を愛することは、彼女を聖化することであり、彼が召会を聖化することは、栄光の召会をご自身にささげるためです。

B. 花嫁の美しさは、召会の中へと造り込まれ召会から輝き出たそのキリストから来て、召会を通して表現されます——イザヤ 43:7. エペソ 3:21。

C. キリストは、彼の民の残された者 [レムナント] にとって栄光の冠また美の王冠です——イザヤ 28:5 :

1. 冠は、帽子やターバンのようなのですが、王冠は、冠の最も美しく栄光な部分であるヘッドバンドです——出 28:36-39. 29:6. イザヤ 62:3。
2. わたしたちは、主の美の家としての召会の中で、彼の麗しさを見つめ続ける必要があります。それによって、わたしたちは、栄光から栄光へと造り変えられ、主によって美しくされ、彼の美しい花嫁となり、彼をわたしたちの美の王

冠として持ちます——Ⅱコリント 3:18. 啓 19:7-9. イザヤ 28:5. 詩 27:4.
イザヤ 60:1, 7, 9, 13, 19. 62:3. 啓 21:11。

Ⅱ. 回復における主の主要な働きは、彼の真実な働きであり、わたしたちを用意して彼の栄光の花嫁とならせます。エペソ第 5 章 26 節で語られている継続的な性情の聖別がなければ、花嫁の用意が整えられる道はほかになく、啓示録第 19 章 7 節から 9 節が成就される道もほかにはありません：

A. 召会は、命を与える霊としてのキリストが言葉の中の水の洗いによってわたしたちを清める聖化の過程を通して、美しくされつつあります——エペソ 5:26-27：

1. これが示しているのは、キリストの言葉の中には、命の水としてのその霊があるということです。彼がわたしたちに語る言葉は霊であり、命です——ヨハネ 6:63。

2. キリストは、命を与える霊として、語る霊です。彼が語ることは何であれ、わたしたちを洗う言葉です。これは「ロゴス (logos)」、すなわち、恒常的な言葉を指しているのではなく、「レーマ (rhema)」、すなわち、即時的な言葉を示しており、主が現在わたしたちに語る言葉です——マタイ 4:4. ヨハネ 6:63. 啓 2:7. 22:17 前半. 参照、イザヤ 6:9-10. マタイ 13:14-15. 使徒 28:25-31。

3. キリストの語りかけはその霊です。彼の語りかけは、命を与える霊の臨在そのものです——ヨハネ 6:63. エペソ 6:17。

4. 命を与える霊としての内住するキリストは常に、即時的で、現在の、生きた言葉を語っており、古いものを新陳代謝的に洗い去り、それを新しいもので置き換え、内側の造り変えを生み出します。

B. そのような洗う過程を通して、わたしたちはキリストで浸透され、キリストによって美しくされて、彼の聖くて、美しい、神を表現する花嫁となります。すなわち、傷や不完全さのない花嫁となります——啓 19:7. 参照、雅 6:13. 8:13-14。

C. 命を与える霊としてのキリストは、言葉の中の水の洗いにしたがって召会を清めることによって、召会を聖化します。神聖な概念によれば、ここの「水」は、神の流れる命を指しており、それは流れる水によって予表されています（出 17:6. I コリント 10:4. ヨハネ 7:37-39. 啓 7:17. 21:6. 22:1, 17）。わたしたちが今やそのような洗う過程の中にいるのは、召会が聖くて傷のないものになるためです。

D. エペソ第 5 章 26 節の「洗い」を指すギリシャ語は、文字どおりには「洗盤」です。旧約で祭司はその洗盤を用いて、彼らの地的な汚れを洗い去りました（出 30:18-21）。わたしたちは日ごとに、朝夕に、聖書に来て、言葉の中の水の洗盤によって清められる必要があります。

E. パウロは言葉とその言葉の洗う過程について語るとき、「レーマ」というギリシヤ語を用いています（エペソ 5:26）。ロゴスは、聖書の中に客観的に記録されている神の言です。レーマは、特定の状況においてわたしたちに語られる神の言葉です（マルコ 14:72. ルカ 1:35-38. 5:5. 24:1-8）。

F. レーマは、何かをわたしたちに個人的にまた直接、啓示して、何に対処する必要があるか、また何から清められる必要があるかをわたしたちに見せます（青銅の洗盤は鏡であり、反映し、暴露することができました——出 38:8）。わたしたち一人一人にとって重要な事は以下の事です。すなわち、神は今日わたしにご自身の言葉を語っておられるでしょうか？

G. わたしたちが常に尊ぶ一つの事は、主が今日、依然としてわたしたちに個人的にまた直接、語っておられるということです。命における真の成長は、わたしたちが神から直接、言葉を受け取ることにかかっています。わたしたちの中の彼の語りかけだけに真の霊的価値があります——ヘブル 3:7-11, 15. 4:7. 詩 95:7-8。

H. わたしたちの祈りの中心点は、わたしたちが主の語りかけを切望することであるべきです。それは、彼の配偶者として花嫁を持つという彼の心の願いにしたがった彼の永遠のエコノミーの目標を、わたしたちが成就することができるようにします——啓 2:7. 参照、サムエル上 3:1, 21. アモス 3:7。

I. とても実地的な意味で、主の臨在は、主の語りかけと一です。彼が語るときはいつでも、わたしたちは彼の臨在がわたしたちの内側にあることを認識します。キリストの語りかけは、命を与える霊の臨在そのものです。

J. わたしたちの内側の命を与える霊としての内住するキリストの語りかけは、清める水であって、新しい要素をわたしたちの中へと蓄えて、わたしたちの性質と性情において古い要素を置き換えます。この新陳代謝的な清めは、命における真の、内側の変化を引き起こします。それは性情の聖別と造り変えの実際です。

K. わたしたちは、わたしたちの霊の中の、命を与える、語る霊としてのキリストによって美しくされなければなりません。命を与える霊としての主がわたしたちの内側で語ることを通して、わたしたちは彼の栄光の召会となりつつあります——エペソ 5:26-27. 啓 2:7。

Ⅲ. エペソ第5章27節が啓示しているのは、キリストの花嫁としての召会が、最終的に、栄光の召会、すなわち、神を表現する召会となるということであって、それには「しみやしわや、そのようなものが何もなく、聖くて傷」がありません：

A. わたしたちの唯一の美しさとは、キリストがわたしたちの内側から輝き出すことです。キリストがわたしたちの内側で尊ぶものは、彼ご自身の表現です——詩 50:2. II コリント 3:15-18. 参照、出 28:2：

1. 「あなたの目は美しさの中にある王を見[る]」（イザヤ 33:17 前半）。「王はあなたの美しさを慕い求めるでしょう」（詩 45:11 前半）。
 2. 「わが愛する者よ、あなたは美しいことテルザのよう、愛すべきことエルサレムのよう、恐ろしいこと旗印を持った軍隊のようである」——雅 6:4。
- B. 花嫁が用意を整えることが意味するのは、彼女が「輝く清い細糸の亜麻布」の衣、すなわち、「聖徒たちの義（複数）」を着ることです（啓 19:8）。この細糸の亜麻布は、花嫁の美しさです。
- C. 花婿は、彼の婚礼の日に、彼の花嫁の美しさを彼女の能力よりもはるかに顧慮します。わたしたちの神である主イエスは、わたしたちの人性を通して表現された彼ご自身の美しさを第一に顧慮します。わたしたちは、日ごとにキリストによって美しくされる必要があります。それは、わたしたちが彼の愛すべき花嫁として用意を整えて、彼にささげられることができるためです。
- D. わたしたちは、時間を費やして、主の言葉を祈り読みしたり、思い巡らしたりすることによって、彼の言葉の中で彼の美しさを見つめるときはいつでも（エペソ 6:17-18、詩 119:15）、彼はわたしたちの美しさとなります。そしてわたしたちは彼によって美しくされて、彼の美の家となります。それによって彼も美しくなります（27:4、Ⅱコリント 3:18、イザヤ 60:7 後半、9 後半、13 後半、19 後半、21 後半）。
- E. エペソ第 5 章 26 節の言葉の中の水の洗いは、おもにしみやしわを対処します。しみは天然の命のものを指しており、しわは古さと関係があります。命の水だけが、命の造り変えによって新陳代謝的にそのような欠陥を洗い去ることができます。
- F. 聖くなるとは、キリストで浸透され、キリストによって造り変えられることです。傷のないとは、しみやしわがないこと、すなわち、わたしたちの古い人の天然の命のものが何もないことです——参照、雅 4:7。
- G. また、召会に「そのようなもの」が何もないことが意味するのは、召会には「このような欠陥もあのような欠陥も」ないということです。神は召会をどのような面からも彼女に対して何も言われることがないような地位にもたらしめます——エペソ 5:27。
- IV. エペソ第 5 章 26 節から 27 節は、雅歌第 8 章 13 節から 14 節に符合しています。両方が啓示しているのは、わたしたちに対する主の語りかけによって、わたしたちは、用意を整えて、彼の栄光の花嫁となり、彼の二度目の来臨を願うということです——「園の中に住む者よ、わたしの仲間たちは、あなたの声に耳を傾けています。わたしにそれを聞かせてください。わが愛する方よ、急いでください。香料の山々の上のかもしかや、若い雄鹿のようになってください」：
- A. 雅歌において、キリストの愛し尋ね求める者は、彼の園としての信者たちの中に

住む方に、彼女の仲間たちが彼の声に耳を傾けているとき、彼の声を聞かせてくださるようにと求めます——雅 8:13. 参照、4:13-16. 5:1. 6:2 :

1. これが示しているのは、キリストを愛する者としてのわたしたちが、わたしたちの愛する方としての彼のために働くとき、彼との交わりを維持し、常に彼に聞く必要があるということです——ルカ 10:38-42。

2. わたしたちの命は、主の言葉にかかっており、わたしたちの働きは、彼の命令にかかっています(啓 2:7. サムエル上 3:9-10. 参照、イザヤ 50:4-5. 出 21:6)。わたしたちは、主の言葉なしに、わたしたちの王(イザヤ 6:1, 5)、わたしたちの主(Ⅱコリント 5:14-15)、わたしたちのかしら(コロサイ 2:19)、わたしたちの夫(Ⅱコリント 11:2)としてのキリストについて、何の啓示も光も個人的な認識ありません。信者の生活は、完全に主の語りかけにかかっています(エペソ 5:26-27)。

B. この詩の書、すなわち、雅歌の結びの祈りとして、キリストの愛する者は、彼女の愛する方が彼の復活の力(かもしかと若い雄鹿)の中で急いで戻って来て、全地を満たす彼の甘く美しい王国(香料の山々)を設立してくださるようにと祈ります——8:14. 啓 11:15. ダニエル 2:35 :

1. そのような祈りは、花婿としてのキリストと花嫁としての彼の愛する者たちとの、新婚の愛における結合と交わりを描写しています。これはキリストの愛する者であるヨハネの祈り(聖書の結びの言葉として)のようであり、それは神聖な愛におけるキリストと召会に関する神の永遠のエコノミーを啓示しています——啓 22:20。

2. 「主イエスよ、来たりませ！」は聖書における最後の祈りです(20 節)。全聖書は、主の再来を切に待ち望む祈りの言葉で結んでいます。